

第 1 回東区まちづくり懇話会議事録(要旨)

- 1 開催日時
平成26年 7月8日(火) 午前10時～午前11時55分
- 2 会場
熊本市東区役所1階 101・102会議室
- 3 出席委員(順不同)
澤田委員、山田委員、丸山委員、村上委員、島委員、古閑委員、田代委員、
下川委員、山野委員、鋸羽委員、多神田委員、早田委員、大隈委員、
西原委員、吉村委員
15名出席
- 4 議事
 - (1) 協議
 - ①平成26年度東区まちづくり懇話会の進め方について
 - ②東区まちづくりビジョンの推進について
 - ③地域課題検討会について
 - (2) その他
- 5 閉 会

議事発言要旨

○会長

議事に入る。協議として「平成 26 年度まちづくり懇話会の進め方」について事務局より説明をお願いします。

■事務局

「平成 26 年度まちづくり懇話会の進め方について」説明 ※資料 1

○会長

只今、事務局より説明のあった「平成 26 年度まちづくり懇話会の進め方」について質問、意見はあるか。

無いようなので、「東区まちづくりビジョンの推進」「地域課題検討会」について事務局より説明をお願いします。

■事務局

「東区まちづくりビジョンの推進」説明 ※資料 2

「2000 人市民委員会アンケート抜粋」説明 ※資料 3

「平成 26 年度地域課題検討会について」説明 ※資料 4

○会長

只今、説明のあったアンケート結果に各区の特徴がでていますが、取組み方次第で区民の意識も変わっていく。東区も様々な取組みを頑張っていきたい。今後、東区のまちづくりについてどの様な方向性が必要であるか意見をいただきたい。

○委員

校区自治協議会の会合の中で、区役所に各校区の範囲を示す東区の全体表示板（地図）のようなものが必要ではないかといった意見があった。区役所に来た人が、東区の校区や範囲を一目で認識可能であり、まちづくりを進める上でも知ってもらうことは重要である。

また、託麻散策マップはよく出来ていると思う。他の地区でも同様な取組みをしてはどうか。託麻三山、江津湖についてはよく取り上げられるが、東区の特徴的なものが出てこない。各地域のまつりが 1 番の特徴であると思う。各地域のまつりをまとめたものを紹介できると面白いと思う。東区のよい面をどう発掘・整理し、アピールしていくか検討すべき。

○会長

只今の話は、東区の全体図を設置し、多くの人に東区を知ってもらい、託麻三山マップのようなものを他地区でも作ってはどうかということであるが、大変素晴らしい意見だと思う。

○委員

自治会の加入率について質問がある。加入率が低いのは、新規加入者が少ないのか、加入者が脱会するのか教えていただきたい。

次に、託麻三山についてであるが、竹の広がりが問題になっている。伐採して捨てるだけではごみが増え、費用もかかるため解決しない。NPO 法人等と協力し、竹墨作りをするなど循環型の産業につなげていくべきではないか。

また、東区では、様々な朝市やイベントが行われているので、まとめたものをフリーペーパーのような形で作ってみてはどうか。

○会長

自治会加入率の質問について、事務局より説明いただきたい。

■事務局

自治会加入率についてだが、2000 人アンケートの結果から、加入しない理由として「時間がない」「自治会情報の不足」があげられる。加入率を上げるためには、周知徹底も必要であると考えている。行政としても、転入者に対して自治会の情報提供等を行っていかなければならない。また、加入者の中でも、活動に参加しない人もおり、単に加入すればよいといった問題ではないと捉えている。

○委員

自治会加入率が減少しているのは事実である。マンション入居者の自治会加入率が低いのではないかと理解している。また、幹線道路から外れた道路を走り、家庭ごみを捨てていくといった問題もある。幹線道路など、東区は交通施策が遅れているのではと感じる。交通施策については、長期的な計画で解決していかなければならない。

ごみ問題については、ポイ捨てが減らない。回覧等で周知徹底を図り、減らす努力も必要である。

○会長

モラルやマナーの話になると思うが、何らかの方法による周知が必要である。

○委員

託麻散策マップはとてもよく出来ており感心した。地域の手作りであるということも素晴らしい取組みであったと思う。自分の地域でも作りたい。

自治会加入率低下の問題は、様々な制度を含めた社会環境の変化も関係していると思う。例えばマンションは、社宅として利用されており、市外からの入居者の人も多く、土日は地元へ帰る。また、管理人も他地域から来ている等、地域との交流がない。そういった構造的な問題もある。

また、公営住宅における自治会脱退者が増えている。自治会役割の明確化や行政窓口の1本化を進めていくべき。地域の実情にあった処方が必要である。

○会長

託麻散策マップ作成の経緯を教えてください。

■事務局

託麻新四国八十八ヶ所めぐりを地元で取り組まれていたが、メンバーの高齢化で継続が難しくなっていた。そのような中、区民の方から継続についての相談があり、託麻の歴史を研究しているグループを中心に託麻公民館とも一緒になって、託麻北校区、託麻東校区の皆さんの協力を得ながらまとめたところである。

○会長

この予算はどうなっているか。

■事務局

区のまちづくり予算で行っている。

○会長

これは地域資源を生かし、行政とうまくタイアップ出来た例だと思う。各地域でも自分達の地域を学び、マップにまとめるといった取組みを東区の全地域で実行していく長期的ビジョンがあっても良いと思う。

○委員

自治会加入率についてであるが、まちづくりを進めていく上で、学生達に地域活動等への参加、協力を求めている部分がある。学生は学校に在籍している期間だけなので、自治会費は免除にしてはどうか。地域活動への参加促進につながっていくのではないかと思う。

○会長

只今の意見は重要だと思う。まちづくりを進めていくうえで、若い人たちの力が
必要である。「無料にするから、手伝ってほしい」という考え方で、若い人たちの
地域活動への参加促進、協力体制の強化に結びつける具体策になるのではないか。

○委員

まちづくりビジョンの基本方針の中に「子ども」というワードがある。まちづく
り推進事業の中で、どの部分に、どの世代の子ども達をターゲットとして取り込む
かが見えてこない。子ども達の取り込み方をまちづくり推進事業の中で打ち出して
いただければ、PTA の立場としても積極的に PR できる。子ども達が関わること
で、保護者も一緒になって関わっていけると思う。

○会長

子ども会といっても親会だ。子ども達を自治会活動に参加させてもいいと思う。

○委員

中学、高校となるにつれて地域から離れていくように感じる。中高生になっても
地域と関わりを持ち、自らボランティア活動等に参加するような仕掛けをしていっ
たほうがよい。

○会長

自治会に学生部を設置し、地域活動に関わらせてはどうか。東区には、大学生も
大勢いる。その人達をパワーとして参加させる考え方もあるのではないか。

○委員

学生達は部活等で時間がないのが現実である。

○委員

中学生以上になると時間もないので、地域のまつりにも参加しない。しかしなが
ら、中高生を主体とした交流が必要であると思う。

■事務局

時間が無くて参加出来ないという話であるが、それぞれ中学校では文化祭を行っ
ている。生徒会は活発に動いており、それだけノウハウを持っている。

龍田の事例であるが、地域には子ども達を遊ばせるような行事は無く、子ども達

がそれに感謝するような行事は出来ないかという考えで、地域の高齢者や自治会役員の方々にお返しするような行事をさわやか推進事業で行った。面倒はかかるが、自分達でやれるだけのノウハウを中学生は持っているので、小学生ほど手間はかからない。中学生をピラミッドの頂点として、小学生が応援する形であれば当然できる訳なので、そこをPTAや子どもを持つ親世代が仕掛けていくということが必要である。地域では、子どもの思い出作りを一生懸命やっているが、逆に子ども達が自主的に、自分達がやって楽しいことを地域に還元することは不可能ではないと思う。

また、プレイパークも行っているが、自分達で出来ることは、彼らに任せるような形で行っている。手間はかかるが、一度軌道に乗れば子どもが子どもを育ててくれる。

そういった仕組みを思い切って実行すれば、子ども達の地域活動への参加は、それほど無理なことではないと思う。それぞれが出来る範囲で役割分担していくとうまくいくと思う。諦めないで、出来る方向で考えていただきたい。若手の取り込み方については、私達もわかっていないので、皆様と一緒に考えて行きたい。

○委員

尾ノ上校区4町内の資源ゴミ回収は、9割方子どもが行っており、その回収費の中から自治会が子ども会へ費用分配している。

また、尾ノ上まつりのポスターは子ども達が絵を描いている。そのお陰で、尾ノ上校区はポスター代が不要になった。全体をまとめている自治会長達はかなりの努力をしているが、その努力が伝わり、皆で協力し合って取組んでいる。

○委員

私の地域では、地域連携推進会議を年2回行い、地域のために貢献する活動を行っている。私の町内では、中学生と自治会が連携して公園の花壇に花を植えている。

また、リサイクル活動も推進しており、子どもから大人まで協力し活動している。このように子ども達は、まちづくりに貢献している。子ども達に活動の枠を作ってあげるとよいのではないか。

○委員

中学生は忙しいから参加が難しいとの意見があったが、いかに興味を持たせるかだと思う。勉強でもそうだが、させられていては伸びない。自主的に取組まなければ、伸びていかない。子どもにさせるべきことを大人が用意しすぎている。用意されたものではやる気は出ない。自主性や継続性を高める工夫が必要だということを経験的に学んでほしい。地域の自治会でも念頭に置き、取組んでもらえればと思う。

また、まちづくりに必要なことは、世代間で地域の問題や認識のズレがあり、それをいかにお互い受け入れていくかということだと思う。

○委員

私の地域では10年ぶりにどんどやが復活し、子ども達が準備や片付けなどとても活躍した。地域活動参加へのよいきっかけとなった。

託麻散策マップについてだが、マップの中にカフェや食事処、宿泊施設など様々な情報を盛り込んでいければと考えている。また、防災マップもそうだが、昼間、地域で働いている人達との連携についても考えていかなければならないと思う。

○委員

自治会主導で夏まつりを行ったが、今までの流れを踏襲するくらいがあり、あまり目新しさがなかった。若い人達に任せるところ面白い発想で、まつりは盛況であった。このように、今までの発想を見直すことも必要である。従来の自治会を中心とした発想ではなく、各団体の特徴をどう活かしていくかが重要になる。

○会長

まつりやバーベキューなど、楽しく取組みやすいところから、取組みの一部を若い人達にやらせてみるのもよいのではないだろうか。

○委員

私の地域では、若手にまつりの実行委員長を任せている。いい人材も育ててきており、地域の活動もこのメンバーが活躍している。まつりが地域のまちづくりに大きく貢献している。

○委員

自分が小学生の頃、廃品回収のときは必ずどこの家からも小学生が参加していた。それが決まりだったわけではなく、自主的に参加し廃品回収していた。最近はそうではなくなっている。自分が参加していた理由は、親から廃品回収の日時を教えてもらっていたことや友達に参加していたからだと思う。中学生になるとそれぞれ理由もあると思うが、参加しても他の中学生が来てないので、だんだん参加しなくなる。そういう問題もあると思う。

資料3についてであるが、「区役所のまちづくり活動を身近に感じるか」等の問いに対する答えの詳細理由について、大学生に調査させてはどうだろうか。

○委員

皆さんの意見を聞いて思ったが、自分が子どもの頃に参加したイベントは、用意されたものであった。子どもに役割を与えて達成感を持たせることができれば、成長に伴い役割に対する責任が大きくなっても、率先してやっていくことが出来るのではないか。習慣化を図ることも重要であると思う。

大学生の地域活動への参加についてだが、大学生の専門性を生かせる場があれば協力できると思う。

○委員

子どもが失敗してもよいから、親が手を出しすぎない。自分でさせてみる必要がある。最低限のルールはあると思うが、待ってあげることも重要である

○委員

まちづくりビジョンの実現に向けた具体的な取組みについてであるが、基本方針1にあるように、住民や地域団体の交流が重要である。みんなで話し合いながら進めていくことが住民主体のまちづくりや活性化につながっていくと思う。

○委員

子どもの頃の記憶はいつまでも残っている。いいマップが出来たので、是非、子ども達に散策してもらいたい。

○委員

東区を全体でまとめるようなことが出来ないか。マップ作りであるが、世代別マップや地域別マップなどマップ作りがきっかけとなって東区がまとまればよいなと思う。

資料3のアンケート調査であるが、マンション、アパート居住者を対象にアンケート調査を行うと違う結果が出るのではと思う。ほとんど自治会に参与していないのではないか。様々な問題も見えてくるのではないだろうか。

○会長

様々のご意見ありがとうございました。それでは、本日の協議についてはここまですとします。

○会長

最後に「その他」について事務局からお願いしたい。

■事務局

「区役所等のあり方に関する検討会」について説明。

○会長

本日の議事についてはこれで終了する。